

**厚真町教育委員会**

**外部評価委員会点検評価**

**平成26年度執行事務事業分**

**厚真町教育委員会**

# 平成26年度分

## 事務事業点検評価結果一覧表及び評価シート別結果

- 1 学校教育グループ
- 2 社会教育グループ



別記様式

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価シート〔平成26年度事務・事業分〕

					グループ名	学校教育グループ	事業番号																														
<b>教育計画の位置付け</b>					<b>〔事務・事業の概要〕</b>			101																													
編	2 たくましく心豊かな子どもを育む学校教育の推進				<b>1 目的及び効果</b> 教職員に今日的な教育課題を踏まえた研修の場を提供することにより、学習指導や学級経営等についての資質・能力の向上を図り、楽しく分かる授業の展開等、日々の授業の改善を通して、児童・生徒の確かな学力の向上と生きる力の育成を図る。																																
章	1 学校教育				<b>2 事業主体</b> (1) 集合研修 主催：厚真町教育委員会 後援：町校長会、町教頭会、町教育研究会 (2) 各学校の研修支援 主催：各小中学校 (3) 教職員先進地視察 主催：厚真町教育委員会			<b>事業名</b> あつま教師力アップ事業																													
節	2 教員の資質の向上				<b>3 事業内容及び対象者等</b> (1) 集合研修 第1回 (7/15) 授業参観、授業検討会、講演 講師：阿部昇氏 (秋田大学教授) 参加者50人(参加率80%) 第2回 (8/1) 講演、ワークショップ 講師：山森光陽氏 (国立教育政策研究所総括研究官) 参加者45人(参加率65.6%) 第3回 (12/26) 講演 講師：二宮信一氏 (北海道教育大学釧路校準教授) 参加者50人(参加率80%) (2) 各学校の研修支援 各小中学校が各1回講師を招へいし、学校課題等に沿ったテーマを設け校内研修を行った。 (3) 教職員先進地視察 視察テーマ「英語教育の推進」 視察先 愛知県岡崎市立本宿小学校、岡崎市教育委員会、岐阜県多治見市立笠原小学校 小学校教諭等4人																																
項	1 研究・研修活動への支援				<b>点検・評価にあたって特記する事項等</b> ・秋田大学教授の阿部教授を3年にわたり本町に招へいしており、学力向上の先進県である秋田県の事例について示唆していただいているが、教員の指導力の向上もさることながら、児童生徒の規則正しい生活習慣の向上も学力向上と密接に関わっていることにも言及された。これを受け、本町では平成27年度から生活習慣向上運動の取り組みを行っている。			<b>〔事業開始年度〕</b> H22 <b>〔事業期間〕</b>  <b>〔事業方向性〕</b> 継続																													
<b>予算科目</b>					<b>☆ 事業評価 (自己評価)</b> <b>☆ 点数による評価</b>																																
款	10 教育費				<table border="1"> <tr> <td>要改善</td> <td>要検討</td> <td>適</td> <td>良</td> <td>好</td> <td>的</td> <td>確</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>5</td> <td>5</td> <td></td> </tr> </table>			要改善	要検討	適	良	好	的	確	1	2	3	4	5	5																	
要改善	要検討	適	良	好	的	確																															
1	2	3	4	5	5																																
項	01 教育総務費				<table border="1"> <tr> <td>妥当性</td> <td colspan="5">児童生徒の知徳体の向上には、一人一人の教職員の資質向上が必要不可欠である。</td> </tr> <tr> <td>公平性</td> <td colspan="5">町内各学校すべての教職員を対象にしている。</td> </tr> <tr> <td>効率性</td> <td colspan="5">同事業は校長会と教頭会と連携して企画運営を行っている。</td> </tr> <tr> <td>達成度</td> <td colspan="5">研修を受けることにより、指導力の向上や学校課題の改善に役立っている。</td> </tr> </table>			妥当性	児童生徒の知徳体の向上には、一人一人の教職員の資質向上が必要不可欠である。					公平性	町内各学校すべての教職員を対象にしている。					効率性	同事業は校長会と教頭会と連携して企画運営を行っている。					達成度	研修を受けることにより、指導力の向上や学校課題の改善に役立っている。										
妥当性	児童生徒の知徳体の向上には、一人一人の教職員の資質向上が必要不可欠である。																																				
公平性	町内各学校すべての教職員を対象にしている。																																				
効率性	同事業は校長会と教頭会と連携して企画運営を行っている。																																				
達成度	研修を受けることにより、指導力の向上や学校課題の改善に役立っている。																																				
目	01 教育委員会費				<table border="1"> <tr> <td>合計評価点</td> <td>18</td> <td>平均評価点</td> <td>4.5</td> <td colspan="2"></td> </tr> </table>			合計評価点	18	平均評価点	4.5																										
合計評価点	18	平均評価点	4.5																																		
<b>予算額・決算額の推移</b>					<table border="1"> <tr> <th>年度</th> <th>当初予算額</th> <th>決算額</th> <th>増減</th> <th>決算前年比</th> </tr> <tr> <td>H22</td> <td>100</td> <td>182</td> <td>82</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>H23</td> <td>300</td> <td>230</td> <td>-70</td> <td>48</td> </tr> <tr> <td>H24</td> <td>430</td> <td>374</td> <td>-56</td> <td>144</td> </tr> <tr> <td>H25</td> <td>600</td> <td>349</td> <td>-251</td> <td>-25</td> </tr> <tr> <td>H26</td> <td>600</td> <td>564</td> <td>-36</td> <td>215</td> </tr> </table>			年度	当初予算額	決算額	増減	決算前年比	H22	100	182	82	-	H23	300	230	-70	48	H24	430	374	-56	144	H25	600	349	-251	-25	H26	600	564	-36	215
年度	当初予算額	決算額	増減	決算前年比																																	
H22	100	182	82	-																																	
H23	300	230	-70	48																																	
H24	430	374	-56	144																																	
H25	600	349	-251	-25																																	
H26	600	564	-36	215																																	
補助金等の有無					<table border="1"> <tr> <td>有</td> <td>無</td> </tr> </table>			有	無																												
有	無																																				
〔名称〕																																					

★厚真町教育委員会外部評価委員会点検・評価の概要

☆ 点数による評価							☆ 点検・評価に対するコメント等
妥当性	1	2	3	4	5	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童生徒の基礎学力の定着を図るためには、教育における課題や成果を学校内、学校間で共有することが大切である。</li> <li>学力テスト等において、平均点が向上することは良いことだが、児童生徒全体の基礎学力の底上げが必要。</li> <li>希望する生徒には進学相談を早期に取り入れるなど、情報を得る機会を設けることで、目標を持てるようにする方法もあると思われる。</li> <li>教育の現場における教師の指導の展開のようすが保護者等に分かるように、本事業を生かしながら情報伝達等の工夫がほしい。</li> </ul>
公平性	1	2	3	4	5	5	
効率性	1	2	3	4	5	5	
達成度	1	2	3	4	5	5	
総体	合計評価点	18	平均評価点	4.5			

別記様式

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価シート〔平成26年度事務・事業分〕

教育計画の位置付け					〔事務・事業の概要〕					グループ名	学校教育グループ	事業番号																											
編	2 たくましく心豊かな子どもを育む 学校教育の推進				<b>1 目的及び効果</b> 教育サポーターを配置し、児童の個に応じたきめ細やかな教育を推進する。小学校の授業場面において、2人の教師が役割分担をしながら、チーム・ティーチング(T・T)授業に取り組み、多様な指導形態や指導方法など、工夫を凝らした授業を展開して、児童の学ぶ楽しさを育て、基礎学力の向上と定着を図る。上厚真小学校に1人配置。					☆ 事業評価(自己評価)			102																										
章	1 学校教育									☆ 点数による評価																													
節	1 知育・徳育・体育の調和があり地域 性豊かな学校教育の推進									<table border="1"> <tr> <td>要改善</td> <td>要検討</td> <td>適</td> <td>良</td> <td>好</td> <td>的</td> <td>確</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>5</td> <td>5</td> <td></td> </tr> </table> 妥当性 町単独事業であるが、児童の基礎学力の向上と定着を図るため、有為な事業となっている。					要改善	要検討	適	良	好	的	確	1	2	3	4	5	5		厚真町教育サポート事業  〔事業開始年度〕 H22 〔事業期間〕  〔事業方向性〕 継続										
要改善	要検討	適	良	好						的	確																												
1	2	3	4	5	5																																		
項	2 学習指導の充実				<table border="1"> <tr> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>5</td> <td>5</td> <td></td> </tr> </table> 公平性 厚真中央小学校には、加配教員(道費)が配置されており、上厚真小学校への配置は適切である。					1	2	3	4	5	5																								
1	2	3	4	5	5																																		
<b>予算科目</b>					<b>3 事業内容及び対象者等</b> 上厚真小学校に1人教育サポーターを配置 ・指導形態～算数を中心としたT・T授業(1～6年生) 習熟度別学習の指導(基礎から応用発展問題まで対応) 長期休業中に行われる学びチャレンジの指導 本の読み聞かせ 運動会、学習発表会、マラソン大会等学校行事にも参画 ・時間数～週26.5時間程度、 年間1275時間勤務(平成26年度実績) ・対象者～上厚真小学校児童																																		
款	10 教育費				<b>4 その他事項</b> 学年により多少のばらつきはあるが、CRTテスト(標準学力検査)の算数科目において、低学年から高学年への過程で着実な成長が見られる。 また、授業の学習ばかりではなく、学校行事などにも参画し、児童への知・徳・体の向上に貢献している。																																		
項	01 教育総務費				<b>点検・評価にあたって特記する事項等</b> ・指導力の高い退職教員を配置することにより、児童の基礎学力の向上等に寄与するほか、現役の教職員への指導や児童への接し方、問題解決能力の向上などの面においても模範となっている。																																		
目	01 教育委員会費				<table border="1"> <tr> <td>合計評価点</td> <td>18</td> <td>平均評価点</td> <td>4.5</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> 達成度 T・T授業により基礎学力の向上、定着が図られている。					合計評価点	18	平均評価点	4.5																										
合計評価点	18	平均評価点	4.5																																				
<b>予算額・決算額の推移</b>					<table border="1"> <tr> <td>年度</td> <td>当初予算額</td> <td>決算額</td> <td>増減</td> <td>決算前年比</td> </tr> <tr> <td>H22</td> <td>2,719</td> <td>2,732</td> <td>13</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>H23</td> <td>5,607</td> <td>2,711</td> <td>-2,896</td> <td>-21</td> </tr> <tr> <td>H24</td> <td>2,937</td> <td>2,655</td> <td>-282</td> <td>-56</td> </tr> <tr> <td>H25</td> <td>2,794</td> <td>2,217</td> <td>-577</td> <td>-438</td> </tr> <tr> <td>H26</td> <td>2,312</td> <td>2,173</td> <td>-139</td> <td>-44</td> </tr> </table>					年度	当初予算額	決算額	増減	決算前年比	H22	2,719	2,732	13	-	H23	5,607	2,711	-2,896	-21	H24	2,937	2,655	-282	-56	H25	2,794	2,217	-577	-438	H26	2,312	2,173	-139	-44
年度	当初予算額	決算額	増減	決算前年比																																			
H22	2,719	2,732	13	-																																			
H23	5,607	2,711	-2,896	-21																																			
H24	2,937	2,655	-282	-56																																			
H25	2,794	2,217	-577	-438																																			
H26	2,312	2,173	-139	-44																																			
補助金等の有無 有 <b>無</b>					総体																																		
〔名称〕																																							

★厚真町教育委員会外部評価委員会点検・評価の概要

☆ 点数による評価							
	要改善	要検討	適	良	好	的	確
妥当性	1	2	3	4	5	5	
公平性	1	2	3	4	5	5	
効率性	1	2	3	4	5	5	
達成度	1	2	3	4	5	5	
総体	合計評価点	18	平均評価点	4.5			

☆ 点検・評価に対するコメント等

・本事業において、児童の基礎学力の向上の成果が見られており、サポートによる指導形態や指導方法などの情報を校内全体で情報共有することができる交流の場を生かしながら、さらに授業の充実を図ってほしい。

別記様式

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価シート〔平成26年度事務・事業分〕

					グループ名	学校教育グループ	事業番号																																																																																																																																																																																												
<b>教育計画の位置付け</b>					<b>☆ 事業評価（自己評価）</b> <b>☆ 点数による評価</b>			103																																																																																																																																																																																											
編	2	たくましく心豊かな子どもを育む <small>高校教育の推進</small>						<table border="1"> <tr> <td>要改善</td> <td>要検討</td> <td>適</td> <td>良</td> <td>好</td> <td>的</td> <td>確</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>5</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>妥 当 性</td> <td colspan="6">大学・専門学校等進学の就学費等負担の軽減と修学意欲を助長している。</td> </tr> <tr> <td>公 平 性</td> <td colspan="6">新規入学者に限らず、在学者も利用可能であり、一定の基準を設けて利用者への公平性を保っている。</td> </tr> <tr> <td>効 率 性</td> <td colspan="6">補正予算の対応で、決定者全員に貸付が可能。貸付は未償還もなく、計画返納されるので資金として活用できる。</td> </tr> <tr> <td>達 成 度</td> <td colspan="6">経済的負担を緩和することで、修学意欲の促進につながっている。</td> </tr> <tr> <td>合 計 評価点</td> <td>19</td> <td>平均 評価点</td> <td>4.75</td> <td colspan="3"></td> <td rowspan="2">           育英資金貸付・奨学金給付事業             〔事業開始年度〕            S33            〔事業期間〕             〔事業方向性〕            継続         </td> </tr> <tr> <td colspan="7">           貸付金の償還は無利子で、修学者へ負担の緩和により、学習意欲の促進につながっている。償還計画については、年度内の予定を無事に完了し、翌年度に繰り越すことはなかった。         </td> </tr> <tr> <td>章</td> <td>1</td> <td colspan="3">学校教育</td> <td colspan="3"> <b>1 目的及び効果</b>            大学、短大、高等専門学校、専門学校の専門課程等これらに相当する学校に在学する学習意欲のある者に学資金の一部を貸与し、又は奨学金を給付し、経済的負担を軽減する。         </td> </tr> <tr> <td>節</td> <td>3</td> <td colspan="3">学校教育環境の充実</td> <td colspan="3"> <b>2 事業主体</b>            厚真町教育委員会         </td> </tr> <tr> <td>項</td> <td>6</td> <td colspan="3">育英資金・奨学金給付事業</td> <td colspan="3"> <b>3 事業内容及び対象者等</b>            (1) 対象者            国内外の大学、短大、高等専門学校及び専修学校専門課程等これらに相当する学校に在学中で、成績優秀であって経済的負担の緩和の必要な者。学習意欲があり、心身共に健康である者。             (2) 事業内容            ①貸付限度額 月6万以内（1万円単位）            ②新規貸付者 大学3名、短大1名、専門学校2名            計6名 貸付金額 4,320千円            ③継続貸付者 大学院3名、大学23名、短大1名、専門学校7名            計34名 貸付金額23,040千円             (4) 近藤奨学金給付事業、中村奨学金給付事業            近藤奨学金 大学2名 100千円            中村奨学金 大学1名、短大1名 80千円         </td> </tr> <tr> <td colspan="5"><b>予算科目</b></td> <td colspan="3"><b>点検・評価にあたって特記する事項等</b></td> </tr> <tr> <td>款</td> <td>10</td> <td colspan="3">教育費</td> <td colspan="3"> <b>4 その他事項</b>            ①貸付所得制限 (財)日本学生支援機構貸付基準所得の2倍まで            ②特別控除 ひとり親世帯、就学者のいる世帯(小中高生、大学、専門学校生)            ③償還期間 貸付を受けた期間の3倍の期間         </td> </tr> <tr> <td>項</td> <td>01</td> <td colspan="3">教育総務費</td> <td colspan="3">           ・貸付の希望者が例年と比較して大幅に減少した。(平成24年度、平成25年度はそれぞれ16名、平成23年度は18名の申請があった。)また、育英資金等の償還が卒業後に大きな負担となっていることが社会的に問題視されてきている。これまで、本町では償還における滞納金が翌年度に繰り越される例は発生していない。         </td> </tr> <tr> <td>目</td> <td>01</td> <td colspan="3">教育委員会費</td> <td colspan="3"></td> </tr> <tr> <td colspan="5"><b>予算額・決算額の推移</b></td> <td colspan="3"></td> </tr> <tr> <td>年度</td> <td>当初予算額</td> <td>決算額</td> <td>増減</td> <td>決算前年比</td> <td colspan="3"></td> </tr> <tr> <td>H22</td> <td>30,960</td> <td>31,800</td> <td>840</td> <td>-</td> <td colspan="3"></td> </tr> <tr> <td>H23</td> <td>34,560</td> <td>37,680</td> <td>3,120</td> <td>5,880</td> <td colspan="3"></td> </tr> <tr> <td>H24</td> <td>40,680</td> <td>36,600</td> <td>-4,080</td> <td>-1,080</td> <td colspan="3"></td> </tr> <tr> <td>H25</td> <td>36,540</td> <td>34,360</td> <td>-2,180</td> <td>-2,240</td> <td colspan="3"></td> </tr> <tr> <td>H26</td> <td>36,780</td> <td>27,540</td> <td>-9,240</td> <td>-6,820</td> <td colspan="3"></td> </tr> <tr> <td colspan="5">補助金等の有無</td> <td colspan="3">           有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> </td> </tr> <tr> <td colspan="5">〔名称〕 育英資金貸付収入 中村教育振興基金繰入金</td> <td colspan="3"></td> </tr> </table>			要改善	要検討	適	良	好	的	確	1	2	3	4	5			妥 当 性	大学・専門学校等進学の就学費等負担の軽減と修学意欲を助長している。						公 平 性	新規入学者に限らず、在学者も利用可能であり、一定の基準を設けて利用者への公平性を保っている。						効 率 性	補正予算の対応で、決定者全員に貸付が可能。貸付は未償還もなく、計画返納されるので資金として活用できる。						達 成 度	経済的負担を緩和することで、修学意欲の促進につながっている。						合 計 評価点	19	平均 評価点	4.75				育英資金貸付・奨学金給付事業  〔事業開始年度〕 S33 〔事業期間〕  〔事業方向性〕 継続	貸付金の償還は無利子で、修学者へ負担の緩和により、学習意欲の促進につながっている。償還計画については、年度内の予定を無事に完了し、翌年度に繰り越すことはなかった。							章	1	学校教育			<b>1 目的及び効果</b> 大学、短大、高等専門学校、専門学校の専門課程等これらに相当する学校に在学する学習意欲のある者に学資金の一部を貸与し、又は奨学金を給付し、経済的負担を軽減する。			節	3	学校教育環境の充実			<b>2 事業主体</b> 厚真町教育委員会			項	6	育英資金・奨学金給付事業			<b>3 事業内容及び対象者等</b> (1) 対象者 国内外の大学、短大、高等専門学校及び専修学校専門課程等これらに相当する学校に在学中で、成績優秀であって経済的負担の緩和の必要な者。学習意欲があり、心身共に健康である者。  (2) 事業内容 ①貸付限度額 月6万以内（1万円単位） ②新規貸付者 大学3名、短大1名、専門学校2名 計6名 貸付金額 4,320千円 ③継続貸付者 大学院3名、大学23名、短大1名、専門学校7名 計34名 貸付金額23,040千円  (4) 近藤奨学金給付事業、中村奨学金給付事業 近藤奨学金 大学2名 100千円 中村奨学金 大学1名、短大1名 80千円			<b>予算科目</b>					<b>点検・評価にあたって特記する事項等</b>			款	10	教育費			<b>4 その他事項</b> ①貸付所得制限 (財)日本学生支援機構貸付基準所得の2倍まで ②特別控除 ひとり親世帯、就学者のいる世帯(小中高生、大学、専門学校生) ③償還期間 貸付を受けた期間の3倍の期間			項	01	教育総務費			・貸付の希望者が例年と比較して大幅に減少した。(平成24年度、平成25年度はそれぞれ16名、平成23年度は18名の申請があった。)また、育英資金等の償還が卒業後に大きな負担となっていることが社会的に問題視されてきている。これまで、本町では償還における滞納金が翌年度に繰り越される例は発生していない。			目	01	教育委員会費						<b>予算額・決算額の推移</b>								年度	当初予算額	決算額	増減	決算前年比				H22	30,960	31,800	840	-				H23	34,560	37,680	3,120	5,880				H24	40,680	36,600	-4,080	-1,080				H25	36,540	34,360	-2,180	-2,240				H26	36,780	27,540	-9,240	-6,820				補助金等の有無					有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>			〔名称〕 育英資金貸付収入 中村教育振興基金繰入金							
要改善	要検討	適	良	好							的	確																																																																																																																																																																																							
1	2	3	4	5																																																																																																																																																																																															
妥 当 性	大学・専門学校等進学の就学費等負担の軽減と修学意欲を助長している。																																																																																																																																																																																																		
公 平 性	新規入学者に限らず、在学者も利用可能であり、一定の基準を設けて利用者への公平性を保っている。																																																																																																																																																																																																		
効 率 性	補正予算の対応で、決定者全員に貸付が可能。貸付は未償還もなく、計画返納されるので資金として活用できる。																																																																																																																																																																																																		
達 成 度	経済的負担を緩和することで、修学意欲の促進につながっている。																																																																																																																																																																																																		
合 計 評価点	19	平均 評価点	4.75				育英資金貸付・奨学金給付事業  〔事業開始年度〕 S33 〔事業期間〕  〔事業方向性〕 継続																																																																																																																																																																																												
貸付金の償還は無利子で、修学者へ負担の緩和により、学習意欲の促進につながっている。償還計画については、年度内の予定を無事に完了し、翌年度に繰り越すことはなかった。																																																																																																																																																																																																			
章	1	学校教育			<b>1 目的及び効果</b> 大学、短大、高等専門学校、専門学校の専門課程等これらに相当する学校に在学する学習意欲のある者に学資金の一部を貸与し、又は奨学金を給付し、経済的負担を軽減する。																																																																																																																																																																																														
節	3	学校教育環境の充実			<b>2 事業主体</b> 厚真町教育委員会																																																																																																																																																																																														
項	6	育英資金・奨学金給付事業			<b>3 事業内容及び対象者等</b> (1) 対象者 国内外の大学、短大、高等専門学校及び専修学校専門課程等これらに相当する学校に在学中で、成績優秀であって経済的負担の緩和の必要な者。学習意欲があり、心身共に健康である者。  (2) 事業内容 ①貸付限度額 月6万以内（1万円単位） ②新規貸付者 大学3名、短大1名、専門学校2名 計6名 貸付金額 4,320千円 ③継続貸付者 大学院3名、大学23名、短大1名、専門学校7名 計34名 貸付金額23,040千円  (4) 近藤奨学金給付事業、中村奨学金給付事業 近藤奨学金 大学2名 100千円 中村奨学金 大学1名、短大1名 80千円																																																																																																																																																																																														
<b>予算科目</b>					<b>点検・評価にあたって特記する事項等</b>																																																																																																																																																																																														
款	10	教育費			<b>4 その他事項</b> ①貸付所得制限 (財)日本学生支援機構貸付基準所得の2倍まで ②特別控除 ひとり親世帯、就学者のいる世帯(小中高生、大学、専門学校生) ③償還期間 貸付を受けた期間の3倍の期間																																																																																																																																																																																														
項	01	教育総務費			・貸付の希望者が例年と比較して大幅に減少した。(平成24年度、平成25年度はそれぞれ16名、平成23年度は18名の申請があった。)また、育英資金等の償還が卒業後に大きな負担となっていることが社会的に問題視されてきている。これまで、本町では償還における滞納金が翌年度に繰り越される例は発生していない。																																																																																																																																																																																														
目	01	教育委員会費																																																																																																																																																																																																	
<b>予算額・決算額の推移</b>																																																																																																																																																																																																			
年度	当初予算額	決算額	増減	決算前年比																																																																																																																																																																																															
H22	30,960	31,800	840	-																																																																																																																																																																																															
H23	34,560	37,680	3,120	5,880																																																																																																																																																																																															
H24	40,680	36,600	-4,080	-1,080																																																																																																																																																																																															
H25	36,540	34,360	-2,180	-2,240																																																																																																																																																																																															
H26	36,780	27,540	-9,240	-6,820																																																																																																																																																																																															
補助金等の有無					有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>																																																																																																																																																																																														
〔名称〕 育英資金貸付収入 中村教育振興基金繰入金																																																																																																																																																																																																			

★厚真町教育委員会外部評価委員会点検・評価の概要

☆ 点数による評価							☆ 点検・評価に対するコメント等		
	要改善	要検討	適	良	好	的	確	・貸付の希望者の減少の傾向の原因が、経済的な理由なのかどうかは不明であるが、生徒や保護者、住民への制度周知方法、周知の時期の早期化など、工夫が必要である。	
妥 当 性	1	2	3	4	5				
公 平 性	1	2	3	4	5				
効 率 性	1	2	3	4	5				
達 成 度	1	2	3	4	5				
総 体	合計 評価点	19	平均 評価点	4.75					

別記様式

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価シート〔平成26年度事務・事業分〕

教育計画の位置付け					〔事務・事業の概要〕					グループ名	学校教育グループ	事業番号									
編	2 たくましく心豊かな子どもを育む 学校教育の推進				<b>1 目的及び効果</b> 小中学校の校舎屋体を計画的に整備し、児童生徒等に対して安全で快適な教育環境を提供し、質の高い教育の実現を図る。また、平成23年3月に発生した東日本大震災を受け、建築基準法施行令の一部改正が行われ、天井脱落対策の規制が強化されたため、災害時に強い施設づくりを行い町民の安全確保を図る。 <b>2 事業主体</b> 厚真町、厚真町教育委員会 <b>3 事業内容及び対象者等</b> 事業内容 (1) 厚真中学校大規模改修工事(天井改修含む)・同校エレベータ設置工事・同校太陽光熱利用設備設置工事実施設計 19,764千円 (2) 厚南中学校天井改修実施設計 2,423千円 (3) 厚南中学校エレベータ改修工事 10,307千円 (4) 厚南中学校ストーブ設置工事 1,653千円 (5) 厚真中央小学校・上厚真小学校天井改修実施設計 4,922千円 (6) 厚真中央小学校エレベータ改修工事 14,699千円 対象者 児童生徒、教職員及び一般町民 <b>4 その他事項(建築年等)</b> 厚真中央小 平成11年 上厚真小 平成7年 厚真中 平成元年 厚南中 平成17年 ※いずれの施設も耐震基準を満たしている。 ※いずれの施設も災害時における避難所となっている。					☆ 事業評価(自己評価)	104		校舎整備事業								
章	1 学校教育									☆ 点数による評価				事業 事務 名 名							
節	3 学校教育環境の充実									要改善	要検討	適			当	良	好	的	確		
項	1 学校施設の整備									妥	当	性		1	2	3	4	5	校舎 整 備 事 業		
予 算 科 目					公	平	性	1	2	3	4	5									
款	10 教育費				効	率	性	1	2	3	4	5		校 舎 整 備 事 業							
項	02 小学校費		03 中学校費		達	成	度	1	2	3	4	5									
目	01 学校管理費		03 学校建設費		総	体		合	計	評	価	点		18	平	均	評	価	点	4.5	
予算額・決算額の推移					点 検 ・ 評 価 に あ た っ て 特 記 す る 事 項 等							〔事業開始年度〕									
年度	当初予算額	決算額	増減	決算前年比	・平成26年度には町防災部局が厚真中央小学校と上厚真小学校に非常用電源設備を整備し、避難所としての機能強化が図られた。 ・また、27年度から2カ年度にわたって大規模改修が予定されている厚真中学校は、特別支援学級の整備、エレベータの設置、スロープの設置、多目的トイレ、シャワー室の設置などバリアフリー対策や障害者へ配慮した施設づくりを目指す。					合計 評価点 18		平均 評価点 4.5		〔事業期間〕							
H22			0	-						継続											
H23	0	1,470	1,470	1,470						〔事業方向性〕											
H24	13,246	14,358	1,112	12,888						継続											
H25	1,600	41,383	39,783	27,025						〔事業方向性〕											
H26	52,630	53,766	1,136	12,383						継続											
補助金等の有無					有					無		〔事業方向性〕									
〔名称〕					学校環境整備交付金							継続									

★厚真町教育委員会外部評価委員会点検・評価の概要

☆ 点数による評価						☆ 点検・評価に対するコメント等			
	要改善	要検討	適	当	良	好	的	確	・今後も、法に定められた基準に沿って校舎等の整備を進められるようお願いしたい。
妥	1	2	3	4	5				
公	1	2	3	4	5				
効	1	2	3	4	5				
達	1	2	3	4	5				
総	合 計 評価点		18	平 均 評価点		4.5			

別記様式

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価シート〔平成26年度事務・事業分〕

教育計画の位置付け		〔事務・事業の概要〕		グループ名	学校教育グループ	事業番号										
編	2 たくましく心豊かな子どもを育む 学校教育の推進	1 目的及び効果 遠距離通学する児童・生徒に対して、スクールバスの運行を図ることに より、交通の安全確保や保護者の負担軽減を図る。		★ 事業評価（自己評価）		105										
章	1 学校教育	2 事業主体 厚真町教育委員会		★ 点数による評価		事業 名 名										
節	3 学校教育環境の充実	3 事業内容及び対象者等		要改善	要検討		適当	良	好	的	確					
項	3 スクールバス運行事業の推進			妥	当	性	1	2	3	4	5	スク ー ル バ ス 運 行 管 理 事 業				
予算科目				公	平	性	1	2	3	4	5					
款	10 教育費	(1) 対象者 通学距離が2 km以上の児童生徒 ①小学生97名 ②中学生58名 合計153名		効	率	性	1	2	3	4	5					
項	02 小学校費 03中学校費	(2) 路線数 直営路線4路線（うち3路線は臨時運転手対応） 民間委託3路線 （委託先：あつまバス 委託料26,500千円）		達	成	度	1	2	3	4	5					
目	01 学校管理費	(3) 便数 登校便1便 下校便3便 (4) 登下校便以外の運行実績 合計262件（276台） 内訳：①学校行事等（特別活動・社会学習等） 136件（142台） ②役場関係（保育園等） 38件（44台） ③厚真高校（保育園訪問） 2件（4台） ④スポーツ少年団（上厚真ベース、キッカーズ） 86件（86台）		合	計	評	価	点	17	平	均		評	価	点	4.25
予算額・決算額の推移		4 その他事項 ・町所有スクールバス4台の購入年はそれぞれ平成10年、平成12年、平 成13年、平成20年で、車両の長寿命化と更新計画の樹立が必要となっ ている。		総		体	遠距離通学の不便を解消するとともに、通学の交通 安全確保と学校教育の円滑な運営などスクールバス の果たす役割は大きいものがある。また、学校行事 をはじめ、保育園児、高齢者等の福祉事業にも利用 され、広範囲にわたり有効に活用されている。 今後の課題としては、部活動等に対応した運転手の 確保など、柔軟な運行を検討する必要がある。									
年度	当初予算額	決算額	増減	決算前年比	〔事業開始年度〕											
H22	34,368	34,023	-345	-	昭和											
H23	34,365	34,632	267	609	〔事業期間〕											
H24	35,018	35,259	241	627	〔事業方向性〕											
H25	35,294	37,617	2,323	2,358	継続											
H26	39,517	39,436	-81	1,819												
補助金等の有無		有	無	点検・評価にあたって特記する事項等												
〔名称〕		・車両の老朽化に伴い、車両の更新と臨時運転手に対応するか、民間への委託で対応するかの検討が求められているが、コスト面や運用面でのメリッ ト・デメリットを慎重に検討、協議する必要がある。 ・部活動に対応した下校便の運行時間や運転手確保などの検討。														

★厚真町教育委員会外部評価委員会点検・評価の概要

★ 点数による評価		要改善	要検討	適当	良	好	的	確		
妥	当	1	2	3	4	5	5	5		
公	平	1	2	3	4	5	5	5		
効	率	1	2	3	4	5	5	5		
達	成	1	2	3	4	5	5	5		
総	体	合	計	18	平	均	評	価	点	4.5

★ 点検・評価に対するコメント等

・児童生徒の登下校時以外のスクールバスの有効な活用について、今後も継続して取り組んでほしい。また、こうした柔軟な対応のためには、町直営による運営の方が適しているように思われる。



別記様式

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価シート〔平成26年度事務・事業分〕

教育計画の位置付け					〔事務・事業の概要〕					グループ名	学校教育グループ	事業番号				
編	2 たくましく心豊かな子どもを育む 学校教育の推進				<b>1 目的及び効果</b> 地元食材の活用やバランスの取れた栄養豊かな食事の提供するとともに、学校給食が「生きた教材」となり、子どもの望ましい食生活の形成や食に関する理解を促し、児童・生徒の豊かな心と健康を育む。					☆ 事業評価（自己評価）			106			
章	1 学校教育									☆ 点数による評価				事業 事務 名 名		
節	1 知育・徳育・体育の調和があり 地域性豊かな学校教育の推進									要改善	要検討	適当	良		好	的
項	9 食育・食農学習の推進									1	2	3	4	⑤		
<b>予算科目</b>					<b>2 事業主体</b> 厚真町教育委員会					妥 当 性			学校給食センター管理運営事業			
款	10 教育費									1	2	3		4	⑤	
項	05 保健体育費									町内小中学校の全児童生徒（認定こども園園児を含む）を対象に学校給食を提供している。			効 率 性			
目	03 学校給食センター費									1	2	3	4	⑤		
<b>予算額・決算額の推移</b>					<b>3 事業内容及び対象者等</b> 学校給食センターを設置、町直営により学校給食を調理し、町内各小中学校、認定こども園に配送、提供している。また、すべての児童・生徒が給食を受けられるように食物アレルギーに対応した給食を提供している。 ○平成26年度実績 給食提供数461食 給食提供日数 195日（こども園230日） 食育の実績（授業、各学年1回）18回 ○対象 町内小中学校児童220人・生徒88人及び認定こども園園児64人、教職員等89人 ○地元食材使用状況 使用食材重量割合では、地元野菜類等で34.4% 米をはじめとして、ジャガイモ、生しいたけ、マスクメロン、トマト、パプリカ、味噌、鶏肉などは95%以上が地元食材。					公 平 性			達成度			
年度	当初予算額	決算額	増減	決算前年比						1	2	3		4	5	
H22	50,557	50,459	-98	-						安心安全な給食及びアレルギー対応給食を提供するための体制の維持が常に求められている。			合 計 評価点			
H23	47,342	46,789	-553	-3,670						1	2	3	④	5	19	
H24	65,214	65,055	-159	18,266						平成12年の事業開始当初から安全安心でおいしい学校給食の提供と町内のすべての児童生徒が給食提供が受けられることを目的に運営している。児童生徒や教職員からは「おいしい」という感想（評価）を得ている。			平均 評価点			
H25	61,296	59,943	-1,353	-5,112						総 体			4.75			
H26	65,596	67,381	1,785	7,438	点 検 ・ 評 価 に あ た っ て 特 記 す る 事 項 等											
補助金等の有無					・安心安全な学校給食の提供を目標とする衛生管理、アレルギー対応等についての学校、保護者、関係機関との情報の共有と連携した取組の推進のための組織化が求められている。 ・国、道の学校給食における食物アレルギー対応指針等に基づく、学校給食センターにおけるアレルギー対応のための栄養士等職員体制の確保 ・消費税の増、物価上昇等に対応した学校給食費（賄材料納付金）の改定に向けた検討					補 助 金 等 の 有 無			〔事業開始年度〕			
〔名称〕 学校給食賄材料納付金					有					H12						
										〔事業期間〕						
										〔事業方向性〕						
										継続						

★厚真町教育委員会外部評価委員会点検・評価の概要

☆ 点数による評価							
	要改善	要検討	適当	良	好	的	確
妥 当 性	1	2	3	4	⑤		
公 平 性	1	2	3	4	⑤		
効 率 性	1	2	3	4	⑤		
達 成 度	1	2	3	④	5		
総 体	合 計 評価点		19	平 均 評価点		4.75	

☆ 点検・評価に対するコメント等

- ・平成21年度から賄材料納付金（給食費）が完納されていることは、学校給食に対する理解の表れと考えられる。
- ・安心安全な給食の提供のため、チェック体制の見直しを含めた強化が求められている。



別記様式

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価シート〔平成26年度事務・事業分〕

教育計画の位置付け					〔事務・事業の概要〕					グループ名	社会教育グループ	事業番号																							
編	3	まちづくり人材を育む社会教育の推進			<b>1 目的及び効果</b> 厚真町の特性と独自性を生かし、町民の多様な学習要求や時代の変化に対応した総合的な生涯学習を推進するとともに、その体系化を図ることを目的としている。 児童生徒の「学習・生活・運動習慣」向上運動や放課後子ども教室開催事業並びに学校支援事業など生涯教育事業の援助に対しての職務は大きいものとなっている。 <b>2 事業主体</b> 厚真町教育委員会 <b>3 事業内容及び対象者等</b> (1) アドバイザー配置1人 (2) 業務内容 ①社会教育事業の活動支援 ②児童生徒の「学習・生活・運動習慣」向上運動 ③放課後子ども教室開催事業等の安全管理員として支援 ④厚真町学校支援事業コーディネーター業務 ⑤家庭教育相談に関すること ⑥学童保育への学習支援	☆ 事業評価(自己評価) ☆ 点数による評価					201																								
章	1	社会教育				妥当性 1 2 3 4 5 適格な人材により、総合的な生涯学習を推進している。	生涯学習アドバイザー設置事業																												
節	1	社会教育推進体制の充実				公平性 1 2 3 4 5 経験豊富な知識を持っている人材であり社会教育に寄与している。																													
項	3	指導体制の充実				効率性 1 2 3 4 5 経験豊富な知識を持っている人材が配置されているので効率が良い活動が行われている。																													
予算科目 款 10 教育費 項 04 社会教育費 目 01 社会教育総務費						達成度 1 2 3 4 5 目的にあった職務をこなし、高い評価を得られている。																													
予算額・決算額の推移 <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>当初予算額</th> <th>決算額</th> <th>増減</th> <th>決算前年比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H22</td> <td>2,040</td> <td>1,719</td> <td>-321</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>H23</td> <td>2,585</td> <td>2,586</td> <td>1</td> <td>867</td> </tr> <tr> <td>H24</td> <td>2,668</td> <td>2,612</td> <td>-56</td> <td>26</td> </tr> <tr> <td>H25</td> <td>2,773</td> <td>2,723</td> <td>-50</td> <td>111</td> </tr> <tr> <td>H26</td> <td>2,702</td> <td>3,419</td> <td>717</td> <td>696</td> </tr> </tbody> </table>					年度	当初予算額		決算額	増減	決算前年比	H22	2,040	1,719	-321	-	H23	2,585	2,586	1	867	H24	2,668	2,612	-56	26	H25	2,773	2,723	-50	111	H26	2,702	3,419	717	696
年度	当初予算額	決算額	増減	決算前年比																															
H22	2,040	1,719	-321	-																															
H23	2,585	2,586	1	867																															
H24	2,668	2,612	-56	26																															
H25	2,773	2,723	-50	111																															
H26	2,702	3,419	717	696																															
補助金等の有無 有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 〔名称〕					点検・評価にあたって特記する事項等 ・平成26年度は、平成27年度からの3か年で重点的に取り組む児童生徒の「学習・生活・運動習慣」向上運動に向けた準備、事業推進計画の作成、また、厚真町いじめ防止基本方針の策定など専門的な業務を遂行し、十分な成果を上げている。多様化する学習ニーズや地域課題に対応する生涯学習の推進体制を図っている。					〔事業開始年度〕 平成5年度 〔事業期間〕 通年 〔事業方向性〕 継続																									

★厚真町教育委員会外部評価委員会点検・評価の概要

☆ 点数による評価						☆ 点検・評価に対するコメント等
	要改善	要検討	適当	良	好的 確	
妥当性	1	2	3	4	5	
公平性	1	2	3	4	5	
効率性	1	2	3	4	5	
達成度	1	2	3	4	5	
総体	合計評価点 16		平均評価点 4			

・学校や地域との調整が積極的に進められており、これからもこうした活動を維持してほしい。  
 ・「学習・生活・運動習慣」向上運動について、アドバイザーから分かりやすい説明が行われていた。

別記様式

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価シート〔平成26年度事務・事業分〕

教育計画の位置付け					〔事務・事業の概要〕					グループ名	社会教育グループ	事業番号			
編	3	まちづくり人材を育む社会教育の推進			<b>1 目的及び効果</b> 各社会教育団体への助成に要する経費 <b>2 事業主体</b> 厚真町教育委員会 <b>3 事業内容及び対象者等</b> (1) 厚真町文化協会補助金(975千円) ・加盟単位団 26団体 会員数 302名(H27年3月現在) 町民一人一人が心の豊かさを実感できるよう、地域に根ざした文化の発信源として活動を行っている。各単位団体の連携と調整を図り、文化の振興に努めている。 主な事業として、「カルチャーバス」「町文化祭」の実施、また、近隣市町との交流事業として「胆振芸術祭」「胆振文化団体交流会」に参加している。 (2) 厚真町PTA連合会補助金(229千円) 町内PTA並びに胆振東部PTA連合会との緊密な協調のもと、学校教育の研究推進や教育関係団体との連絡提携し、教育の推進を図ることを目的としている。 (3) 厚真町婦人団体協議会補助金(250千円) ・加盟単位団 4団体 会員数 27名(H27年3月現在) 明るく住み良い地域づくりを目指し組織の充実強化と他団体との連携、生活課題の学習と実践活動、青少年の健全育成等を目的としている。主な事業として、「町婦人大会」「歳末助け合いチャリティ演芸大会」「文化祭バザー」の開催。また、北海道女性大会、胆振管内婦人大会等にも参加している。 (4) 厚真町子ども会育成連絡協議会補助金(354千円) ・加盟単位団 3団体 会員数35名 町内の地域子ども会相互の連絡、調整を図るとともに、各活動を通じて地域子ども会の発展向上と青少年の健全育成に寄与することを目的としている。 (5) 体育・文化振興行事参加費補助金(1,462千円) 交通費、宿泊費等の支給となっている。大会別/胆振大会3回、ブロック大会2回、全道大会6回、全国大会3回 団体別/学校7回、少年団3回、文化2回、個人2回。体育振興及び文化振興を主眼とした町外行事に参加した町民の団体又は個人に対して、その経費の一部を助成し体育文化活動の助長を図ることを目的としている。					☆ 事業評価(自己評価)	202				
章	1	社会教育								☆ 点数による評価 要改善 要検討 適 当 良 好 的 確 1 2 3 4 5 妥 当 性 各団体の目的に沿った活動を実施しており、各々の活動を通じて生涯教育に貢献している。					事業名 団体補助事業
節	1	社会教育推進体制の充実								1 2 3 4 5 公 平 性 各団体において目的に沿った活動をしており問題は無い。					
項	4	関係機関・団体との連携強化								1 2 3 4 5 効 率 性 各団体の要望により補助金を助成しているため、問題はない。					
予算科目 款 10 教育費 項 04 社会教育費 目 01 社会教育総務費					1 2 3 4 5 達 成 度 各団体の事業計画によって、実施されている。										
予算額・決算額の推移 年度 当初予算額 決算額 増減 決算前年比 H22 3,189 2,583 -606 - H23 3,224 3,218 -6 635 H24 2,949 2,758 -191 -460 H25 3,081 2,370 -711 -388 H26 3,008 5,770 2,762 3,400					合 計 評価点 16 平均 評価点 4 総 体 生涯教育を推進していくうえで、欠かすことのできない団体・協議会であり、事業内容を見ても十分な活動がされている。しかし、会員数の減や活動内容がマンネリ化しているものもあり、これからは、団体内で活性化に向けて 見直しも必要であると思う。					〔事業開始年度〕 〔事業期間〕 〔事業方向性〕 継続					
補助金等の有無 有 無 (名称)					点 検 ・ 評 価 に あ た っ て 特 記 す る 事 項 等 ・各団体の活動費を町が助成することにより、それぞれの団体がそれぞれの目的に沿った活動を各団体の発足から継続して実施している。文化協会の各単位団の共通の課題は、会員の高齢化が進んでいることで活動が低迷していくことが心配されるが、そのため、各単位団の状況を把握することが必要である。また、厚婦団についても会員数が減少の傾向にあり、役員となる後継者がいないという状況であり、各団体の今後の活動の活性化に向けては、教育委員会として指導・助言等支援が必要である。										

★厚真町教育委員会外部評価委員会点検・評価の概要

☆ 点数による評価					
	要改善	要検討	適 当	良 好 的	確
妥 当 性	1	2	3	4	5
公 平 性	1	2	3	4	5
効 率 性	1	2	3	4	5
達 成 度	1	2	3	4	5
総 体	合 計 評価点 17		平 均 評価点 4.25		

☆ 点検・評価に対するコメント等

- ・各社会教育団体の構成員の高齢化や少数化傾向の中で、それぞれの団体を支える一助となっている。
- ・各団体が抱える課題をサポートする取組も必要になってきていると思われる。

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価シート〔平成26年度事務・事業分〕

教育計画の位置付け					〔事務・事業の概要〕					グループ名	社会教育グループ	事業番号																																																								
編	3	まちづくり人材を育む社会教育の推進			<b>1 目的及び効果</b> すべての小学生を対象に放課後や土曜日、長期休業中における安全・安心な居場所を確保するとともに、豊かな体験活動の機会の充実を図る。 ○学童保育に入所できない高学年にも放課後における安全安心で豊かな放課後生活が提供できる。 ○放課後教室での子どもたちとの関わりを通して地域の教育力の向上が図られる。	<b>2 事業主体</b> 生涯学習課社会教育グループ	<b>3 事業内容及び対象者等</b> すべての小学生を対象に、放課後や土曜日、長期休業中における安全・安心な活動拠点を設け、スポーツ・文化活動、地域住民との交流活動、各種体験学習等の取組を展開することにより、体験活動等の機会を充実させ、子ども達が地域社会の中で、心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進する。 放課後子ども教室実績 <登録者数> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th></th> <th colspan="2">H24</th> <th colspan="2">H25</th> <th colspan="2">H26</th> <th>増減</th> </tr> <tr> <td></td> <td>登録者数</td> <td>登録率</td> <td>登録者数</td> <td>登録率</td> <td>登録者数</td> <td>登録率</td> <td>H25→H26</td> </tr> <tr> <td>全体</td> <td>163</td> <td>77.6%</td> <td>192</td> <td>90.1%</td> <td>212</td> <td>96.4%</td> <td>6.2%</td> </tr> </table> <実人数による参加率> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th></th> <th colspan="2">H24</th> <th colspan="2">H25</th> <th colspan="2">H26</th> <th>増減</th> </tr> <tr> <td></td> <td>参加実人員</td> <td>実参加率</td> <td>参加実人員</td> <td>実参加率</td> <td>参加実人員</td> <td>実参加率</td> <td>H25→H26</td> </tr> <tr> <td>全体</td> <td>139</td> <td>85.3%</td> <td>174</td> <td>90.6%</td> <td>188</td> <td>88.7%</td> <td>-1.9%</td> </tr> </table> <平均参加率(登録児童数に対する平均参加児童数)> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th></th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> </tr> <tr> <td>全体</td> <td>38.0%</td> <td>40.2%</td> <td>37.0%</td> </tr> </table>		H24		H25		H26		増減		登録者数	登録率	登録者数	登録率	登録者数	登録率	H25→H26	全体	163	77.6%	192	90.1%	212	96.4%	6.2%		H24		H25		H26		増減		参加実人員	実参加率	参加実人員	実参加率	参加実人員	実参加率	H25→H26	全体	139	85.3%	174	90.6%	188	88.7%	-1.9%		H24	H25	H26	全体	38.0%	40.2%	37.0%	<b>4 その他事項</b> 放課後児童クラブ(学童保育)との連携あるいは一体化による「放課後子ども総合プラン」を、平成31年度までに体制整備を図り、子どもの居場所と体験活動機会の一層の充実を図るための取組を推進する。	☆ 事業評価(自己評価)			203
	H24		H25					H26		増減																																																										
	登録者数	登録率	登録者数	登録率				登録者数	登録率	H25→H26																																																										
全体	163	77.6%	192	90.1%				212	96.4%	6.2%																																																										
	H24		H25		H26		増減																																																													
	参加実人員	実参加率	参加実人員	実参加率	参加実人員	実参加率	H25→H26																																																													
全体	139	85.3%	174	90.6%	188	88.7%	-1.9%																																																													
	H24	H25	H26																																																																	
全体	38.0%	40.2%	37.0%																																																																	
章	1	社会教育			☆ 点数による評価																																																															
節	3	青少年教育の推進			要改善	要検討	適当	良	好	的	確	事業 名 放課後子ども教室開催事業																																																								
項	1	郷土愛を培うための事業			1	2	3	4	5	妥 当 性 全小学生の35%以上が安定的に利用しており、新たな子どもの居場所・体験活動の場として定着している。																																																										
	2	ボランティア活動の充実			1	2	3	4	5																																																											
	4	異世代交流の推進			1	2	3	4	5																																																											
					1	2	3	4	5																																																											
<b>予算科目</b> 款 10 教育費 項 04 社会教育費 目 01 社会教育総務費					効 率 性 NPOへの外部委託により事業の充実を図っており、効率的な運営体制となっている。					公 平 性 すべての子ども達が利用できるようになっており適当である。																																																										
<b>予算額・決算額の推移</b> 年度 当初予算額 決算額 増減 決算前年比					達 成 度 所期の目的である子供たちの安全・安心な新たな居場所づくり、体験活動の充実について十分に達成している。また、本事業を支えてくれる多様な主体とのネットワークも構築されつつある。																																																															
H22	-	-	-	-	合 計 評価点 19 平均評価点 4.75																																																															
H23	-	-	-	-	総 体 全ての児童に放課後等における新たな居場所が創出され、安定的に一定の参加を得ることができている。また、運営に当たって民間のノウハウを投入し、活動内容の充実を図っていることで、質の高い体験活動を継続的に提供することができ、子どもたちの生きる力を育むことに寄与することができた。また、数値では見えにくい成果ではあるが、活動を支える地域団体との新たなネットワークづくりにも民間委託の成果が表れている。																																																															
H24	6,982	6,872	-110	0	今後は、放課後児童クラブとの一層の連携体制を図りながら、子供が育つ環境づくりに向け、さらなる充実を目指していく。																																																															
H25	6,552	6,395	-157	-477	〔事業開始年度〕 H24																																																															
H26	8,439	8,274	-165	1,879	〔事業期間〕 通年																																																															
補助金等の有無 <b>有</b> 無 〔名称〕 学校・家庭・地域の連携による教育支援活動促進事業費補助金					点 検 ・ 評 価 に あ た っ て 特 記 す る 事 項 等 ・今後は、さらに地域との連携をより深めた取組みを実施するため、地域の方の参加者を増やし、地域団体との連携を充実させたい。また、国が新たに推進する放課後子ども総合プランとして、学童保育との一層の連携を進めながら、継続・充実を図っていく必要がある。					〔事業方向性〕 継続																																																										

★厚真町教育委員会外部評価委員会点検・評価の概要

☆ 点数による評価							
	要改善	要検討	適当	良	好	的	確
妥 当 性	1	2	3	4	5	5	
公 平 性	1	2	3	4	5	5	
効 率 性	1	2	3	4	5	5	
達 成 度	1	2	3	4	5	5	
総 体	合 計 評価点 20		平 均 評価点 5				

☆ 点検・評価に対するコメント等

- ・子どもたちの放課後における居場所の確保に有効な事業となっている。
- ・自然体験等、子どもたちにとって豊富で多様な体験が得られる環境は素晴らしい。
- ・町外の子どもたちとの交流や子ども会との連携など、多様な交流の機会をメニューに取り入れることも必要である。

別記様式

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価シート〔平成26年度事務・事業分〕

教育計画の位置付け					〔事務・事業の概要〕					グループ名	社会教育G	事業番号
編	3	まちづくり人材を育む社会教育の推進			<b>1 目的及び効果</b> 幼児から高齢者まで、幅広い年代の人が本に触れる機会を持ち、本に親しんでもらえるよう読書環境を整え、読書活動の推進を行う。平成23年度に「厚真町子ども読書推進計画」を策定し、子どもの読書活動の推進を行う。 <b>2 事業主体</b> 厚真町教育委員会 <b>3 事業内容及び対象者等</b> 1 図書室環境整備 ○図書資料購入・整備 平成26年度蔵書数 一般書22811冊、児童図書14,880冊、雑誌1,103冊、視聴覚資料890冊 ○図書室夜間延長（平成15年度～） ○移動図書及び一括貸出、連携 上厚真小学校への移動図書（週1回）、高齢者生活支援ハウスともいき荘巡回（月1回）、各学童・保育園への一括貸出、道立図書館との連携（道立図書館から青少年センター図書室へ300冊程度一括大量貸出支援を受ける一年3回、小学校への道立図書館支援ボックス貸出の中継、相互貸借・横断検索の利用） ○図書室だよりの発行（生涯学習だよりに）月1回発行 図書室の情報発信 ○厚真町子ども読書活動推進計画（平成23年度～） ○子ども（おやこ）読書手帳配布 2 図書ボランティアグループの育成・活動支援 司書が中心となってボランティアグループの活動支援を行う 3 ボックススタート事業（平成15年度～） 乳児健診の機会を利用し、乳幼児とその保護者に本の読み聞かせの大切さを読み聞かせの実演を交えて説明し、絵本を手渡すと共に、図書室の活用・ボランティアグループによる読み聞かせ会の案内を行う	☆ 事業評価（自己評価）	204					
章	1	社会教育				☆ 点数による評価	読書活動推進事業 【事業開始年度】 【事業期間】 通年 【事業方向性】 継続					
節	9	図書活動の充実				要改善 要検討 適 当 良 好的 確						
項	1	図書室機能の充実				妥 当 性						
	2	図書ボランティアグループの育成・活動支援				公 平 性						
	3	ボックススタートの取り組み				効 率 性						
予 算 科 目						達 成 度						
款	10	教育費				合 計 評価点 15 平均 評価点 3.75						
項	04	社会教育費				青少年センター図書室は、地域の主の図書室として学校や学童・子ども園（保育所）など各関連機関と協力しながら、地域住民の読書活動推進に取り組んでいる。H25年度に司書を雇用してからは、専門的な知識と、ノウハウによって利用者のニーズに沿った運営を図っている。 参考数値※前回評価H24年度 リクエスト・予約冊数 H24 206件 H26 318件 相互貸借（借受） H24 46件 H26 88件						
目	05	青少年センター費				総 体						
予 算 額 ・ 決 算 額 の 推 移					点 検 ・ 評 価 に あ た っ て 特 記 す る 事 項 等							
年度	当初予算額	決算額	増減	決算前年比	・青少年センター図書室の利用状況 平成25年度：貸出冊数23,519冊 利用者数7,376人 平成26年度：貸出冊数18,869冊 利用者数6,233人（他の図書館では、電子書籍の普及で利用者が減少した事例があり、本町も影響が考えられる） ・今後はより利用者に利用しやすい環境を整備するとともに、ニーズに沿った図書資料の充実など読書活動の推進を行う。※H27年度 円形ホール（歴史の部屋）を絵本・読み聞かせスペースに改修する。							
H22	6,332	6,254	-78	-								
H23	4,129	4,052	-77	-2,202								
H24	7,066	6,870	-196	2,818								
H25	7,631	7,357	-274	487								
H26	7,413	7,393	-20	36								
補助金等の有無					有							
〔名称〕 北海道市町村振興協会市町村交付金												

★厚真町教育委員会外部評価委員会点検・評価の概要

☆ 点数による評価					
	要改善	要検討	適 当	良 的	確 的
妥 当 性	1	2	3	4	5
公 平 性	1	2	3	4	5
効 率 性	1	2	3	4	5
達 成 度	1	2	3	4	5
総 体	合計	16	平均	4	

☆ 点検・評価に対するコメント等	
・マナーの徹底など良好な環境で読書をしたり、学習したりすることができるように心がけてほしい。 ・読書活動は人間形成にも重要な役割を担っている。さらに推進してほしい。 ・こども園等への周知活動やホームページの活用など、積極的なピーアール活動の展開が必要と考える。	

別記様式

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価シート〔平成26年度事務・事業分〕

教育計画の位置付け					〔事務・事業の概要〕					グループ名	社会教育グループ	事業番号					
編	3	まちづくり人材を育む社会教育の推進			<b>1 目的及び効果</b> 全町民を対象として、集まりンピック（町民体育祭）を開催し、町民の健康の維持増進を図るとともに、町民の親睦と融和を図り、町の活性化の一助とすることを目的としている。	<b>2 事業主体</b> 主催：厚真町 厚真町教育委員会 主管：第14回集まりンピック実行委員会 後援：厚真町体育協会 協力：各自治会	<b>3 事業内容及び対象者等</b> (1) 開催日・場所／8月24日（日）・かしわ公園野球場 (2) 参加人数／13自治会 580人 (3) 種目数／自由参加 6種目・自治会参加 6種目 (4) 参加賞／ポイント制商品券（会場内で賞品交換） (5) 経費／参加賞 636千円 消耗品 7千円	<b>4 その他事項</b> 13自治会約600名の参加がある。近年は、若い世代の参加者も増えており、町民が一堂に集うことができる貴重な行事となっている。	☆ 事業評価（自己評価）			205	町民体育祭開催事業				
章	1	社会教育							☆ 点数による評価								
節	10	スポーツの推進							妥当性	1	2			3	4	5	町民体育祭開催事業
項	2	健康づくり・体力づくり事業の推進							公平性	1	2			3	4	5	
予算科目					効率性	1	2	3	4	5							
款	10	教育費			達成度	1	2	3	4	5							
項	05	町民体育祭開催事業			総体	合計評価点	16	平均評価点	4								
目	01	体育振興費			平成4年度に自治会参加数が急激に減少したが、それ以後現在まで12~13自治会の参加を継続して維持している。内容は、幼児から高齢者まで、幅広く参加できるプログラムとなっている。誰でも楽しみながら参加できるので、町民の交流の場となっている。今後も事業を継続し発展させていく。					〔事業開始年度〕	昭和41年度						
予算額・決算額の推移					点検・評価にあたって特記する事項等					〔事業期間〕	通年						
年度	当初予算額	決算額	増減	決算前年比	・町民体育祭を町民の交流の場とするため、多くの町民が参加できるように、面白い競技種目を企画し、取り入れていきたい。					〔事業方向性〕	継続						
H22	835	824	-11	260													
H23	654	621	-33	-203													
H24	732	588	-144	-33													
H25	682	641	-41	53													
H26	680	588	-92	-53													
補助金等の有無					有	無	〔名称〕										

★厚真町教育委員会外部評価委員会点検・評価の概要

☆ 点数による評価						☆ 点検・評価に対するコメント等
	要改善	要検討	適当	良	好的	確
妥当性	1	2	3	4	5	
公平性	1	2	3	4	5	
効率性	1	2	3	4	5	
達成度	1	2	3	4	5	
総体	合計評価点	16	平均評価点	4		

・町民参加の場としての魅力づくりのための工夫等を検討してほしい。  
 ・新たな視点で体育祭の運営内容を検討することも必要ではないか。

別記様式

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価シート〔平成26年度事務・事業分〕

教育計画の位置付け					〔事務・事業の概要〕					グループ名	社会教育グループ	事業番号					
編	3	まちづくり人材を育む社会教育の推進			<b>1 目的及び効果</b> 多様なスポーツの機会を提供することで、町民の体力向上と健康づくりに資するとともに、各種事業の参加者同士がグループをつくったり、技術向上のために教えあうなどして、交流のきっかけづくりの場となることを目指している。	<b>2 事業主体</b> 厚真町教育委員会	<b>3 事業内容及び対象者等</b> (1) 自治会対抗ナイターパークゴルフ大会／新町運動広場パークゴルフ場 ・夏季大会(6月26日 11自治会 15チーム 70名) ・秋季大会(9月9日 9自治会 14チーム 63名) (2) 町民登山会／(6月29日 昆布岳 23名) (3) 水泳教室／各小学校プール(7月25日～8月5日 108名) (4) NHKジュニアバドミントン教室(9月14日 81名) (5) 健康ふれあいマラソン大会／スポーツセンター周辺(10月13日 151名) (6) ルテックウォーキング(町民福祉課連携10月14日 20名) (7) ミニバレーボールウィンターリーグ/ｽﾎﾟｰﾂｾﾝﾀｰ(11月30日 25ﾃﾈｰﾑ 157名) (8) スケート教室／町民スケートリンク(1月8日～1月10日 171名) (9) 小中学校スケート記録会／町民スケートリンク(1月31日 45名) (10) 室内ソフトボール大会／スタードーム(2月17日～2月20日 11ﾃﾈｰﾑ 198名) (11) 軽スポーツ教室・ふまねっと(4月16日～3月10日 16回 273名)	<b>4 その他事項</b> 体育協会加盟団体とスポーツ推進委員の協力により運営している。	☆ 事業評価(自己評価)			206	事業名  生涯スポーツ振興事業				
章	1	社会教育							☆ 点数による評価								
節	10	スポーツの振興							妥当性	1	2			3	4	5	生涯スポーツ振興事業  〔事業開始年度〕  〔事業期間〕  〔事業方向性〕
項	2	健康づくり・体力づくり事業の推進							公平性	1	2			3	4	5	
<b>予算科目</b> 款 10 教育費 項 05 保健体育費 目 01 体育振興費					効率性	1	2	3	4	5							
<b>予算額・決算額の推移</b> 年度 当初予算額 決算額 増減 決算前年比 H22 687 573 -114 -113 H23 609 560 -49 -13 H24 717 597 -120 37 H25 665 507 -158 -90 H26 755 618 -137 111					達成度	1	2	3	4	5							
補助金等の有無 有 (無)					点検・評価にあたって特記する事項等					合計評価点 16 平均評価点 4 町民がスポーツに親しみ、健康の維持増進を図るため有効な事業内容となっている。また、季節に合わせた事業になっている。今後もさらに多くの町民が参加していただけるよう、町民のニーズを把握し、各種教室等を継続して実施していきたい。	通年 継続						
〔名称〕					・それぞれの世代・ニーズに応じた各種競技の教室・大会等を実施している。平成26年度は、外部から指導者を招いて、バドミントン教室を開催した。また、軽スポーツ・ふまねっと教室も盛んに実施され参加者の拡大に向けて取り組んでいる。					〔事業方向性〕 継続							

★厚真町教育委員会外部評価委員会点検・評価の概要

☆ 点数による評価					
	要改善	要検討	適 当	良 好	確 確
妥当性	1	2	3	4	5
公平性	1	2	3	4	5
効率性	1	2	3	4	5
達成度	1	2	3	4	5
総 体	合計評価点 16		平均評価点 4		

☆ 点検・評価に対するコメント等

・生涯スポーツとしての種類も多く、町民の参加者も相当数と思われる。継続した取組を行ってほしい。